

平成30年度 学校関係者評価

東邦大学付属東邦中学校・高等学校

1. 評価表

- 経営理念および職員心得： 学校法人東邦大学への帰属意識を堅持し、誠実な倫理観で生徒・保護者に対応する。
- 組織目標（年度運営方針）： 少子化に伴う中高の受験人口の減少に対応し、財政基盤を堅固にしつつ、社会要請に対応した「選ばれる学園」づくりを完全中高一貫教育体制の整備によって進める。
- ①建学の精神を生かした6カ年一貫教育の推進とグローバル化など社会要請に対応できる意欲的な人材の養成社会に対応できる意欲的な人材の育成
 - ②完全中高一貫化教育体制の整備による「選ばれる学園づくり」（健全な進学校）作り
 - ③収支の均衡と財政の健全化

組織目標達成のための計画・具体的施策	校 内 評 価（達成状況と改善策）	関係者評価
<p>◆組織目標を共有し一致協力する教員集団の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織目標の提示(年度初めの職員会議) ・教員個々を対象とする組織目標達成度の調査(2学期末) ・組織目標達成度の調査の集計・分析報告 ・授業アンケート、魅力ある学校づくりのための生徒・保護者アンケート実施とその活用 <p>1. 建学理念を具現化する教育</p> <p>①目指す教育・目指す生徒像の明確化、教養主義教育の推進についての発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「年度初めの職員会議」、「新任教員研修会」、「保護者会総会」等での発信 ・学校新聞、スクールガイド、学校ホームページ等を通しての発信 ・学校行事、部活動を通じての心身の均衡のとれた人格の形成 <p>※学習活動との適切なバランスを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『自然・生命・人間』の活用（「響いの言葉」作文集の作成と生徒配付） <p>②「明るい学園」づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の励行、接遇態度（言葉遣い、服装）の向上 ・公共マナーの育成 ・校内美化 <p>・教員の勤務時間の適正化(部活動休業日の週1回以上の徹底、適正な退勤時間の指示等)</p>	<p>◆組織目標を共有し一致協力する教員集団の形成</p> <p>◎教職員対象「目標達成度調査」の集計結果は次の通りであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①本校の置かれた状況を厳しく受け止められたか。→ 90%以上の教員が肯定的な自己評価 ②建学理念に基づく私学教育の推進に向けて一致協力できたか。→ 90%以上の教員が肯定的な自己評価 ③学校への帰属意識をもって勤務することができたか。→ 90%以上の教員が肯定的な自己評価 <p>⇒ 概ね目標は達成されている。今後は安易な自己肯定に陥ることなく「帰属意識や職業意識」の質を高めていく必要がある。</p> <p>◆目指す教育の具現化への取り組み</p> <p>魅力ある学校づくりのための生徒・保護者アンケート(2016年度、2017年度に実施)において、基本的な教育姿勢・校風等に対する回答は肯定的なものが多数であった。また、中学入学志願者数も高いレベルを維持している。(詳細は後記)</p> <p>→ 本校の「自然・生命・人間の建学理念具現化を目指す教育」「教養主義教育の推進」が、「受験生とその保護者」「在校生とその保護者」に肯定的に受け止められていると判断できる。広報活動も着実に成果を出していると考ええる。</p> <p>◆学校行事・部活動などを通じての心身の均衡のとれた人格の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学体育祭、高校球技大会(行事名スポーツデイ)、中高文化祭などでは生徒の主體的な取り組みを重視した。 ・ 中学は80%、高校は73%の生徒が部活動に参加している。 ・ 中学は80%、高校は73%の生徒が部活動に参加している。 <p>→ 本校では従前から、学校行事や部活動を心身の均衡のとれた人格を育む上で非常に有意義な教育活動ととらえ、学習活動とのバランスを図りつつその充実に努めてきた。学校行事のうち、とくに学芸的行事・体育的行事・旅行的行事については生徒の満足度が高いことがアンケート結果にも表れている。(2017年度 80%以上が肯定評価) 以上より、学校行事や部活動に関する学校の基本的な考え方は概ね適正に生徒に受け入れられていると考えているが、部活動については、保護者の一部から「練習が厳し過ぎる。進学校としての本校の立ち位置に即した部活を…」という趣旨の訴えも寄せられており、2017年度より「部活動における休業日週1日以上」を徹底した。今後も、部活動の教育上の意義を十分踏まえた上で部活動方針や活動時間の設定の在り方などについて学校全体で検討していく必要がある。</p> <p>◆明るい学園づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内美化について ⇒ 事務部の格別の業務努力により格段に改善している。 ・公共マナーの育成に関して <p>ホームルームを通しての指導に加え、全教員が協力しての登下校指導を計画的に行ってきたが、通学路での歩行態度(道幅いっぱい広がつての歩行等)、バスや電車の乗車態度などについては、市民からの苦情はなかなか少なくならない。</p> <p>⇒ 地道な指導を継続していく他ないと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の勤務時間の適正化(部活動休業日の週1回以上の徹底、適正な退勤時間の指示等) <p>⇒ 社会全体で働き方改革が注目されており、本校においても学校全体で取り組む課題だと認識している。</p> <p>★検討のための基礎資料を得るべく、2018年度に教職員全員を対象として勤務時間調査を実施した。</p> <p>31年度にはICカードによる出怠管理を行う予定である。</p>	<p>組織目標達成のための計画に提示されている ①目指す生徒像の明確化 ②教養主義教育の推進 ③明るい学園づくり について、学校長を先頭に全職員がまとまって取り組みを進めていることがうかがわれる。今後は大学入試改革などの教育環境の変化にも適切に対応し、伝統ある進学校として一層の発展を目指していただきたい。</p> <p>教育の姿勢・校風等について、在校生・保護者の満足度が高いこと、受験生やその保護者にも支持されていることはとても結構なことである。これまでの取り組みを踏襲し、評価をさらに盤石なものにしていただきたい。</p> <p>⇒ 「校内美化の取り組み」については評価項目「教育環境の整備」に評価、意見を掲載した。</p> <p>「生徒一人一人が社会の構成員であることを自覚するような指導」を検討し、実践されたい。</p> <p>先生方全員を対象にした組織目標達成度調査の結果や学校関係者委員会での管理職の先生方のご発言などから、東邦中高の先生方が職責を重く受け止め、謙虚な姿勢で誠実に勤務されていることが痛いほど伝わってくる。先生方の熱い思いを東邦中高のますます発展に繋げていくには、教員の勤務の時間の適正化は克服しなければならない重い課題である。管理職の先生方の格別のリーダーシップに期待する。</p>

組織目標達成のための計画・具体的施策	校内評価（達成状況と改善策）	関係者評価
<p>2. 完全中高一貫教育と特色ある教育の推進</p> <p>①基礎学力の充実と知識習得力と課題探求力のバランスを図る教養主義教育の実践</p> <p>②学習指導・進路指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平素の授業の充実 ・6カ年進路指導体制の推進（学問体験講座・大学見学会・進路ガイダンス・職業講話等） ・学力診断（定期考査問題の充実、中学達成度確認試験・校外模試分析） ・学力増進対策の検討（進路指導・学習指導検討委員会、教科主任会議） <p>★学志高揚 国公立医業理系及び難関国公立大学志望奨励</p> <p>★英語4技能の習得を目指した授業実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中1英語A分割授業 ・中学1～3年英語B（ネイティブ・日本人教員のティームティーチング）分割授業 ・中3に加えて高1に英語Aオンライン英会話導入など <p>★ICTを活用した授業</p> <p>★個に応じた学習</p> <p>★課題学習と発表（総合的学習の時間の活用等）</p> <p>③国際交流教育の充実</p> <p>◎オーストラリア研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セントピーターカレッジとの姉妹校提携およびその更新 ・語学研修の実施学年および参加者募集の変更（高1→中3 募集数50名→参加希望者全員） ・サイエンスコースの新設、実施（高1、高2 希望者対象 参加者23名） ・スポーツを通しての交流（2018年度は中学サッカー部で実施、今後は他の部活での実施も検討） <p>◎シンガポール研修</p> <p>◎帰国生の積極的受け入れ・留学生受け入れ（AFS）及び派遣</p> <p>◎「高校生留学」のサポート</p> <p>◎その他（国際交流室・教科・部活動・日本文化等、国内での交流の実施）</p> <p>④宇宙教育プロジェクトの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇宙イヤーの各イベントの企画運営（・打ち上げイベント ・ISS交信イベント 等） ・報告会イベントの企画運営 	<p>◆「完全中高一貫教育と特色ある教育の推進」への基本的な取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度中学入学生から「指導内容の前倒しを含む中高完全一貫の教育課程」を実施しているが、教育実践の場での悩みの声がかかり出ている。特に中学教員の35%が目標達成未達との自己評価をしており、「学志高揚」への努力という点でも中学校教員の方が自己評価が厳しい。中高一貫教育における基礎づくりの大切さと難しさを示していると考える。 <p>⇒ 「真に豊かな学力」を育成すべくカリキュラム・教材の一部見直し等を組織を挙げて検討する。 （特任委員会（進路指導・学習指導検討委員会）の設置 教科主任会議・教科会での検討等）</p> <p>◆英語4技能の習得を目指した授業実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミッションの重要性を指導担当者は真摯に受け止め努力を重ねている。 <p>⇒ 学校組織を挙げての努力を積み上げていきたい。</p> <p>◆「ICTを活用した授業」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの教員が（電子黒板・プロジェクターの利用・パワーポイント・インターネットの活用等）に積極的に取り組んでいる。 <p>⇒ 今後は各教員の工夫を情報交換しながら学校全体の教育力の向上につなげていきたい。</p> <p>◆国際交流教育の充実について</p> <p>◎平成26年度に校務分掌として立ち上げられた国際交流室の主導により、国際交流、国際理解教育に関わる取り組みを推進した。</p> <p>⇒ 目標は概ね計画通り実現した。今後はこれまでの取り組みを検証し、内容をさらに発展させることに努めたい。</p> <p>◆宇宙教育プロジェクトの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JAXA、習志野市、市川市の協力も得て学校組織を挙げて取り組んだ。 <p>⇒ 「生徒たちに夢と勇気を与える与える行事」として成功したと受け止めている。</p>	<p>先生方（特に中学校の先生方）が学校の現状、教科に課せられた使命、を真に重く受け止め、謙虚な姿勢で日々努力されていることを、痛いほど感じる。先生方どうし適切な情報交換、相互協力をしながら、前向きにミッションに立ち向かっていただきたい。 大学進学実績において、医学部をはじめとする理系学部へ多くの生徒が進学しており、これまでの取り組みが現れていると思われる。完全一貫教育を着実に進めるために、教科ごとの検証だけでなく教科の枠を超えて学校全体で改善に取り組むことを期待する。</p> <p>「英語の4技能習得を目指した授業の実践」「ICT教育の充実」「国際交流教育の充実」は、そのどれもが今後の中等教育の現場に課せられた重大な課題だと考える。東邦中高の取り組みの誠実さは評価に値する。</p> <p>東邦中高の歴史に残る行事になったと思う。関係者の努力に敬意を表したい。</p>
<p>3. 教育環境整備（授業環境整備と生徒の安全性確保）</p> <p>①学習に集中できる環境づくり</p> <p>②校舎等の整備</p> <p>③教室環境・授業環境の整備</p> <p>④学校生活への適応支援・心の居場所づくり</p> <p>⑤生徒の安全確保・安否確認</p>	<p>◎「評価項目2の③明るい学園づくり」と内容が一部重複するが、ここでは具体的な取り組みを中心に評価を行った。</p> <p>◆校内美化について ⇒ 事務部の格別の業務努力により格段に改善している。(再掲)</p> <p>◆校内の照明のLED化の推進 ⇒ 計画通り実施した。</p> <p>◆「普通教室への電子黒板・プロジェクター配備、Wi-Fi環境整備」 ⇒ 計画通り実施した。</p> <p>◆学校生活への適応支援・心の居場所づくり</p> <p>⇒ 学級担任・学年主任・生徒指導部長・養護教諭・スクールカウンセラーが連携して取り組んだ。</p> <p>◆学校生活の安全確保 ⇒ 正門・西門入口の守衛所設置、警備員による入場管理</p> <p>⇒ 防犯カメラの設置(正門、西門、教室棟内の廊下等)</p> <p>◆生徒の安否確認システムの導入 ・安全確保のためのマニュアルなどの確認</p> <p>⇒ 生徒の安全確保・安否確認システム(e-pa)を導入した。このシステムは災害時の安否確認だけでなく、学校からの一斉連絡や家庭からの遅刻・欠席連絡にも利用できることから、今後さらに有効な利用を図ってきたい。</p>	<p>隅々まで清掃が行き届いており、また、全教室には冷暖房が完備されているだけでなく、プロジェクターやWi-Fiが整備されており、体育館にも冷暖房が設置されているなど、学校として十分な教育環境が整備されていることを確認した。建設から相当な年月を経過した校舎もあり、老朽化が目立つところもあるが、計画的に改善・補修を進め、引き続き良好な教育環境の維持に努めていただきたい。</p> <p>生徒の安全を確保するために学校を挙げて取り組んでいることを高く評価する。</p>

組織目標達成のための計画・具体的施策	校内評価（達成状況と改善策）	関係者評価
<p>4. 完全中高一貫教育・特色ある教育推進のための整備・検討</p> <p>①教科指導体制の中高一貫化</p> <p>②大学入試改革及び新学習指導要領への対応の検討</p> <p>③教員研修時間の整備・一日研修の実施</p> <p>④帰国生(入学・編入学)指導の実施</p>	<p>◎「評価項目2の完全中高一貫教育と特色ある教育の推進」と内容が一部重複するが、ここでは「指導体制の整備」を中心に評価を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校における中高完全一貫化教育課程の実施 <p>⇒ 計画通り実施した。しかしながら「調査項目2の自己評価の欄」に記載したように本校の生徒の実情に即しての「カリキュラム・教材の一部見直し」は緊急を要する課題だと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学入試改革及び新学習指導要領への対応の検討 ⇒ 教頭・教務部長・教科主任を中心に具体的な検討に取り組んでいる。 ・情報の共有及び研修の実施・新教育課程の編成 ・一日研修の実施 ⇒ 計画通り実施した。 ・高校帰国生入試による入学者への支援 ⇒ 2017年度の取り組みを踏襲し、国語・数学・理科の補習授業を行った。 ・中学帰国生英語取り出し授業の実施準備 ⇒ 2019年度入学生から取り出し授業を実施すべく準備を進めた。 	<p>先生方(特に中学校の先生方)が学校の現状、教科に課せられた使命、を実に重く受け止め、謙虚な姿勢で日々努力されていることを、痛いほど感じる。先生方どうし適切な情報交換、相互協力をしながら、前向きにミッションに立ち向かっていただきたい。大学進学実績において、医学部をはじめとする理系学部へ多くの生徒が進学しており、これまでの取り組みが現れていると思われる。完全一貫教育を着実に進めるために、教科ごとの検証だけでなく教科の枠を超えて学校全体で改善に取り組むことを期待する。 再掲</p>
<p>5. 生徒募集・入試改革</p> <p>①入試改革(中学校帰国生入試の導入等)及び関連事項の検討</p> <p>②海外生徒募集活動を含む生徒募集活動の充実</p>	<p>◎生徒募集(計画・実施)、入試(計画・実施)について、例年通り組織を挙げて取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入試改革の一環として中学帰国生入試の実施に取り組んだ。(2018.12.1実施 出願者数61名) ・2020年度入試を視野に、ウェブ出願・ウェブ入学手続きの実施・改善に取り組んだ。 ⇒ 概ね計画通り実施した。 ・海外生徒募集を含む生徒募集活動 ⇒ 概ね計画通り実施した。 <p>高校帰国生入試 募集者数10名 出願者数 (2017年度 35名 2018年度 31名 2019年度 27名)</p> <p>中学入試 募集者数300名 出願者数 (2015年度 2972名 2016年度 2748名 2017年度 3518名 2018年度 3454名 2019年度 3609名)</p>	<p>少子化に伴う中高の受験人口の減少という厳しい社会情勢の中、着実に出願者を確保している現実を高く評価する。今後も創意工夫とたやまぬ努力を続け、歴史ある進学校としてますます発展されることを期待する。</p>
<p>6. 情報提供と管理</p> <p>①情報提供の充実</p> <p>②情報の管理運営(システム室)</p> <p>③情報の管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの充実(保護者向け、一般向け) ⇒ 例年通り、「きめ細かい情報提供」に努めた。 ・教員のICTリテラシー向上 ⇒ 例年通り、初任者に対して「ICTリテラシー」に関する講習を実施した。 ・個人情報保護・管理徹底 <p>⇒ 概ね徹底されているが、一部の教員にはまだ認識の甘さが見られる。個人情報管理に関するルールを整備し、その徹底を管理職が職員会議の場で全教員に訴えた。</p>	<p>東邦中高の学校HPは行事の写真だけでなく、日常の写真が掲載されており、学校の様子を知ることができるので、担当の先生の取り組みに常々感謝している。しかしながら、保護者向け、生徒募集の両側面からHPでの情報提供は今後ますます重要性を増すと思われます。より高い頻度で、多方面から、学校の教育活動を報告できるように、情報提供の頻度、情報発信についての数値目標を設定ことを提案する。各学年、各教科、部活、学問体験講座、での取り組みなど、担当の先生ご自身が情報発信することができると、頻度と多様性の面から、よよ充実した情報提供になるかと思う。</p>
<p>7. 財政基盤の確立財政の確立</p> <p>中長期的視点に立つ財政基盤の確立</p> <p>①収入源の確保</p> <p>②経費の節減</p> <p>③機器備品</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学則定員の確保 ⇒ 学則定員は確保されている。 ・学納金の改定実施(授業料改定の学年進行) ⇒ 計画通り実施した。 ・節電 節水 消耗品の節約 <p>⇒ 教職員対象「目標達成度調査」において、ほぼ全教員が肯定的な自己評価をしていることは結構なことである。無駄遣いを慎むことが「生徒の教育環境の整備」につながることを心に体して、「節約」に取り組んでいきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き計画的な予算執行に心がけていただきたい。 ・生徒募集に関して、単に定員を確保ことを目的とするのではなく、教育方針を十分理解している生徒を確保されたい。